

決め手は自給飼料の低コスト生産！高所得率酪農経営を確立

高梁市 N牧場

事例の内容と技術解説

1 高所得率経営

N牧場は経産牛22頭、育成牛9頭を飼養する酪農経営です。N牧場の特徴は26%という低い乳飼比にあり、その結果、所得率30%の安定的な経営を確立しています。これは、県内酪農経営の所得率平均(15%：岡山県畜産会平成11年度経営診断成績 以下「畜産会」)の倍です。また、生乳100kg当たり生産原価は6,680円で、県平均(畜産会)の約87%の生産費で牛乳を生産しています(表1)。

表1 経営成績一覧

項目	N牧場	県平均	N/県(%)	備考
乳飼比	26	46	57	購入飼料費/生乳販売額 %
所得率	30	15	200	所得額/売上高 %
生産原価	6,680	7,693	87	生乳100kg当たり円
購入飼料費	180,108	338,481	53	経産牛1頭当たり円

注)県平均は平成11年度岡山県畜産会経営診断成績

2 良質自給飼料の低コスト生産がポイント

本経営が、このように低乳飼比・高所得率経営を確立している理由は、良質自給飼料を低コストで確保し、購入粗飼料を最低限に押さえていることにあります。ちなみに経産牛1頭当たりの購入飼料費は約18万円と、驚くほど低い金額に低減しています(表1)。

3 どのようにして良質自給飼料を低コストで生産しているか

(1) 品種試験を実施し、自分の経営に適した良質多収品種を選定

トウモロコシやスーダングラス、イタリアンライグラスの品種栽培試験を自ら実施し、自作地の土壌条件や排水条件、気象条件、さらには作業体系や収量性、品質、乳用牛の嗜好性等を検討し、我が家に適した品種を厳選して栽培しています。

(2) 土地利用率の向上

飼料作物の輪作体系を確立し、274aの飼料畑・転作田を効率的に利用して、自給飼料生産をしています(土地利用率178%)。



写真1 収穫ロスの少ない調整作業

【輪作体系の例】

(例1)トウモロコシ + イタリアン

トウモロコシ 5月中旬播種 ————— 8月下旬収穫

イタリアン 10月中旬播種 ————— 5月上旬収穫

(例2)スーダングラス + イタリアン

スーダングラス 5月中旬播種 — 7月20日頃収穫 — 8月20日頃収穫 — 9月20日頃収穫

イタリアン 10月中旬播種 ————— 5月上旬収穫

(3) 適期播種 + 適期収穫の徹底

栄養収量と乳用牛の消化率、嗜好性、天候等を考慮し、適期播種と適期収穫を励行しています。収穫ステージはイタリアンとスーダングラスでは出穂初期、トウモロコシでは黄熟期に決め、できるだけ刈り遅れは避けるように努めています。



写真2 適期収穫の励行

(4) 安全な自給飼料の確保

生産する自給飼料は乳用牛にとって安全なものであることが第一条件であり、そのために飼料畑への過剰なふん尿投入は避け、年間堆肥投入量は4～4.5t/10a程度にしています。そのため、自給飼料の硝酸態窒素はサイレージで乾物中100ppm以下となっています。



写真3 ふん乾燥施設

(5) 自給飼料の低コスト生産

機械の共同利用や、中古機械の情報の収集と購入による取得価格の低減、こまめな機械管理(オイル交換や油差し等)による使用年数の延長等により、自給飼料を低コストで生産しています(スーダングラスで生草1kg当たり8.0円)。

参考にする場合の留意点

1 地域の自然条件及び土地条件に合わせた栽培草種・品種の選定

同じ草種でも、各種苗会社から多くの品種が販売されているが、それぞれ異なる特性があるので、選定には品種の特性を十分考慮する。また、小面積で試験的に栽培してみることも重要である。

2 栄養収量・牛の嗜好性を考慮した適期播種・適期収穫の厳守

輪作体系の確立は適期播種と適期収穫がポイントであり、そのことが可能な草種・品種の選定、作業体系の組み立てが重要である。刈り遅れによる栄養収量と嗜好性の低下、それに伴う次作の播種時期の遅れ等、悪循環につながっているケースは少なくない。

高梁農業改良普及センター 安永 勝行